

山梨方言青年層話者におけるバスケット ボール用語のアクセント調査*

専門家アクセントはどの程度起こりうるものなのか

福盛 貴弘・宮下 美穂

要 旨

バスケットボール経験者と未経験者である 20 代の山梨方言話者にバスケットボールの用語のアクセントを調査した。その結果、専門家アクセントによる平板化という観点では、全 231 例のうち 3 例 (1.3%) しか該当するものがみられず、山梨方言青年層話者におけるバスケットボールの用語の発話については、専門家アクセントはほぼ実現しないということが明らかになった。

キーワード

山梨方言 青年層 アクセント 専門家アクセント 平板化 外来語

1 序

青年層におけるアクセントの変化の例として、下がり目があるアクセント型であった語が、平板化する、すなわち下がり目がないアクセント型になるといった現象が起こっている。井上史雄 (1998) では、

標準的なアクセントでは、楽器の「ドラム」は「テレビ」と同じで、最初だけが高く発音されて、すぐに下がる。しかし、音楽をしている人は「タバコ」のアクセントと同じように、「ドラム」と発音するというのだ。面白いと思って、その後気をつけてウォッチングを試みると、さまざまなことばが平板アクセントで発音されている。しかもその人の得意な分野の単語のようだ。バイクに乗る人は「バイク」と言うし、コンピュータに詳しい人は「ファイル」と言う。

と記され、こういった平板化に対して「専門家アクセント」と名づけている。また、井上史雄 (1998) には、水泳部員が「メドレー」から「メドレー」になる例、バレー部員が「レ

* 本稿は、2007 年度に大東文化大学外国語学部日本語学科に提出された卒業論文 (宮下美穂「山梨方言におけるバスケットボール用語のアクセント調査」) を元に、福盛が大幅に加筆改訂したものである。なお、宮下はバスケットボール歴 14 年のバスケットボール経験者である。

フト・ライト・レシーブ・トス・スパイク・ブロック・セッター・スパイク」などが平板化する例などが報告されている。

こういった事例を読みながら、一方で自身 (=宮下) にふりかえってみると、小学校 3 年生の頃から大学 4 年生までの 14 年間ずっとバスケットボール部に所属しており、ろくに遊ぶ暇もなく、バスケットボールに時間を費やしてきたのであるが、この平板化ということに対して、全く実感がわかなかった。そこで、この実感を検証するために、バスケットボール用語において経験者と未経験者との間で専門家アクセントが出現するか否かを調査するにいたった。

なお、筆者 (=宮下) の実感を検証するという点においては、母方言である山梨方言である方がよいと考えた。山梨方言において、アクセントは 2 種に大別できる。東部に属する甲府アクセントと西部に属する奈良田アクセントである。今回の場合、インフォーマントが 4 人とも東部に位置する富士吉田市・都留市・忍野村・山中湖村であるので、甲府アクセントになる。甲府アクセントは、アクセントの型も体系も東京アクセントと同じであるという¹。しかし、個々の語についてみると東京と山梨県の間に多少の違いがあるようだ。これは外来語でも同じことが言えるだろう。今回の調査ではバスケットボールの用語を扱う。バスケットボールはアメリカのスポーツなので、バスケットボールの用語には外来語が多い。よって、今回の調査では、専門家アクセントに対する検証を行うと同時に、山梨方言青年層話者における外来語アクセントの型の概観を捉えられると考えている。

2 目的

バスケットボール経験者と未経験者である 20 代の山梨方言話者にバスケットボールの用語を言ってもらい、以下の点を探ることを目的とする。

- (1) バスケットボールの用語から、山梨方言話者の外来語のアクセント型がどのように実現しているのか。
- (2) 経験者と未経験者でアクセントが異なり、経験者のみが平板化する専門家アクセントがどの程度出現するのか。

3 方法

3.1 インフォーマント

いずれも 20 代の若い世代で、山梨県で言語形成期を過ごした人を起用した。バスケットボール経験者男女 1 名ずつとバスケットボール未経験者男女 1 名ずつの計 4 名を調査した。年齢は調査を行った時点のものである。

¹ 望月信彦 (1952)、稲垣正幸・清水茂夫 (1983)参照。

氏名	性別	年齢	言語形成地	経験
長田 愛氏 (OA)	女性	22	山梨県山中湖村	経験者
志村 俊輔氏 (SS)	男性	22	山梨県忍野村	経験者
須藤 涼太氏 (SR)	男性	22	山梨県都留市	未経験者
山木 芽衣氏 (YM)	女性	22	山梨県富士吉田市	未経験者

3.2 調査語彙

調査で用いたバスケットボールの用語は以下の 231 語である。

表 1：調査語彙一覧

拍数	調査語彙
2	パス
3	アウト、ガード、ゴール、シュート、シール、スピン、タップ、チップ、ディナイ、ハドル、ファール、フェイク、ボール、ポスト、マーク、ミート、ゲーム、バッシュ、ボトル、ナイシュ
4	アシスト、ウイング、オフENSE、ギャロップ、クラッチ、クリアー、コーナー、シューター、スイッチ、スタート、スタメン、スタック、スナップ、スティー、スペース、センター、ディフェンス、トラップ、ドライブ、ハーキー、パターン、パスラン、ピボット、フォワード、フラッシュ、メンバー、モーション、ユーザー、リバー、レシーブ、レフリー、バスパン、バツク、スウェット、ゼッケン、タイマー
5	アラウンド、インライン、エントリー、カットイン、ジャンプパス、スクリーン、スクリーナー、スコアラー、スターター、スローイン、セーフティー、チップオフ、チャージング、チェストパス、ツーガード、ノーマーク、パッシング、パスライン、バックパス、バックラン、フックパス、プッシング、プッシュパス、ボールマン、ボスハンド、マークマン、ミスマッチ、ムービング、リードパス、リバウンド、ローポスト、ロングパス、ワンハンド、Cカット、Iカット、Lカット、Vカット、Uカット、マネージャー、ランニング、ストレッチ、サーキット、アイシング、ユニホーム、テーピング、スリーメン、ファイブメン
6	アウトサイド、エアーボール、エンドボール、エンドライン、オールコート、カットアウト、キックボール、ゴールライン、サイドボール、サイドライン、シックスマン、ジャブステップ、ジャンプシュート、ジャンプボール、スキップパス、ステップイン、タップシュート、タイムアウト、ダブルチーム、ダンクシュート、トラベリング、ハンズアップ、バウンドパス、バックシュート、バックターン、ピックアップ、ファールアウト、フェイスガード、フックシュート、フリースロー、ホールディング、ボールサイド、ボールライン、ボディーチェック、ポストアップ、ポップアウト、ポンプフェイク、マッチアップ、

	ミドルショット、ミドルポスト、ミドルライン、ルーズボール、ルックアップ、ローテーション、ロールターン、ワンドリブル、ワンステップ、ファイブファール、ショルダーパス、トレーニング、ナンバリング、ベンチタオル
7	アウトナンバー、インターセプト、オフェンスファール、オーバータイム、オールラウンド、コフィンコーナー、クローズアウト、クロスオーバー、クロスステップ、サイドステップ、ショートコーナー、ジャンプストップ、スイッチアップ、スリーポイント、セットオフェンス、ゾーンディフェンス、タイムオーバー、タイムキーパー、ダブルドリブル、ノールックパス、ノーバスケット、パワードリブル、パイオレーション、バックステップ、ピボットフット、ビハインドパス、ファイトオーバー、フィールドゴール、プレスディフェンス、フロアバランス、フロントコート、フロントターン、ブザービーター、ペイントエリア、ボックスアウト、ポイントガード、パワーフォワード、ゲームキャプテン
8	アップスクリーン、インサイドエリア、インサイドフット、オープンスタンス、ストロングサイド、スリークォーター ² 、ダウンスクリーン、ターゲットハンド、テクニカルファール、ノーモーションパス、ファーストブレイク、ブラインドカット、ボクサースタンス、ランニングシュート、ルックアラウンド、ワンツーステップ、シューティングガード、スモールフォワード、アーリーオフェンス
9	アウトオブバウンズ、アウトサイドエリア、アウトサイドフット、オーバーヘッドパス、オールコートプレス、クローズドスタンス、ストライドストップ、ピックアンドロール、ビハインドドリブル、フェイダーウェイシュート、フレアースクリーン、ボールサイドカット
10	インサイドスクリーン、オールコートディフェンス、オールコートマンツーマン、コントロールドリブル
11	アウトサイドスクリーン
12	バスケットボールカウント

3.3 録音方法

インフォーマントに何も知らない状態で調査語彙リストを (1 枚あたり最大 35 語を掲載) を渡し、上から順番に 2 回ずつ読みあげてもらった。最初に、わからない単語が出てきても自分で思うように読みあげるようにと告げ、録音を開始した。インフォーマントの負担を減らすため、リスト 1 枚が終わるたびに 1 分ほど休憩を挟みながら読みあげてもらった。

録音器材となる IC レコーダー (Victor 社製 alneo XA-C51-B) を机の上に置き、机の前にインフォーマントを座らせ録音した。

² インフォーマントには「クォーター」の表記で提示したが、全てのインフォーマントが「クォーター」のように 5 拍で読んだので、「スリークォーター」を 8 拍として扱う。以降の表記では「クォーター」に統一する。

録音日時は、長田・志村・山木の3氏は2007年11月3日に、須藤氏は2007年12月7日である。

3.4 分析方法

分析はICレコーダーからコンピュータに音響編集ソフト「Cool edit 2000」を利用して取り込み、音声を再生した上で自身の耳でアクセントの高低を記録した。

4 結果

語頭については、東京方言と同様に句音調が関わっていた³。よって、アクセントとしては下がり目の位置がどこであるのかが重要であると判断したので、以下の結果では下がり目の位置が後ろから何拍目にあるかを「-(数字)」という形で示す。

表2：結果一覧⁴

調査語彙	末尾	拍構造	OA	SS	SR	YM
アイシング	アイシング	5	0	0	0	0
アウト	アウト	3	-3	-3	-3	-3
カットアウト	アウト	3+3	-3	-3	-3	-3
タイムアウト	アウト	3+3	-3	-3	-3	-3
ファールアウト	アウト	3+3	-3	-3	-3	-3
ポップアウト	アウト	3+3	-3	-3	-3	-3
クローズアウト	アウト	4+3	-3	-3	-3	-3
ボックスアウト	アウト	4+3	-3	-3	-3	-3
アシスト	アシスト	4	-3	-3	-3	-3
ハンズアップ	アップ	3+3	-3	-3	-3	-3
ピックアップ	アップ	3+3	-3	-3	-3	-3
ポストアップ	アップ	3+3	-3	-3	-3	-3
マッチアップ	アップ	3+3	-3	-3	-3	-3
ルックアップ	アップ	3+3	-3	-3	-3	-3
スイッチアップ	アップ	4+3	-3	-3	-3	-3
アラウンド	アラウンド	5	-3	0	-4	-3
ルックアラウンド	アラウンド	3+5	-4	-4	-4	-3

³ 頭高型以外の起伏式および平板式では、1拍目から2拍目にかけて上昇する。撥音・長音および二重母音に相当する音が2拍目に来る場合は1~2拍目は高平となり、促音が2拍目に来る場合は1~2拍目は低平となる。

⁴ 表中で空欄となっているのはミスによって録音できなかったことを、2種類書いている(例えば0,-3)のは2回の読みあげてゆれたことを示す。

カットイン	イン	3+2	-2	-3	-2	-2
スローイン	イン	3+2	-2	0, -2	-2	-2
ステップイン	イン	4+2	-3	-3	-2	
インターセプト	インターセプト	7	-3	-3	-3	-3
ウイング	ウイング	4	0	0	0	0
ペイントエリア	エリア	4+3	-3	-3	-3	-3
インサイドエリア	エリア	(2+3)+3	-3	-3	-3	-3
アウトサイドエリア	エリア	(3+3)+3	-3	-3	-3	-3
エントリー	エントリー	5	-5	-5	-5	-5
クロスオーバー	オーバー	3+4	-4	-4	-4	-4
タイムオーバー	オーバー	3+4	-4	-4	-4	-4
ファイトオーバー	オーバー	3+4	-4	-4	-4	-4
チップオフ	オフ	3+2	-2	-2	-2	-2
オフENSE	オフENSE	4	0	0	0	0
セットオフENSE	オフENSE	3+4	-4	-4	-4	-4
アーリーオフENSE	オフENSE	4+4	-4	-4	-4	-4
ガード	ガード	3	0	0	0	0
ツーガード	ガード	2+3	-3	-3	-3	-5
フェイスガード	ガード	3+3	-3	-3	-3	-3
ポイントガード	ガード	4+3	-3	-3	-3	-3
シューティングガード	ガード	5+3	-3	-3	-3	-3
バスケットボールカウント	カウント	(5+3)+4	-4	-4	-4	-4
Cカット	カット	2+3	-3	-3	-3	-3
Iカット	カット	2+3	-3	-3	-3	-3
Lカット	カット	2+3	-3	-3	-3	-3
Vカット	カット	2+3	-3	-3	-3	-3
Uカット	カット	2+3	-3	-3	-3	-3
ブラインドカット	カット	5+3	-3	-3	-3	-3
ボールサイドカット	カット	(3+3)+3	-3	-3	-3	-3
タイムキーパー	キーパー	3+4	-4	-4	-4	-4
ゲームキャプテン	キャプテン	3+4	-4	-4	-4	-4
ギャロップ	ギャロップ	4	-4	0	0	-4
スリークォーター	クォーター	3+5	-4	-4	-4	-4
クラッチ	クラッチ	4	-3	0	-3	-3

クリアー	クリアー	4	-3	-3	-3	-3
ゲーム	ゲーム	3	0	0	0	0
オールコート	コート	3+3	-3	-3	-3	-3
フロントコート	コート	4+3	-3	-3	-3	-3
コーナー	コーナー	4	-4	-4	-4	-4
コフィンコーナー	コーナー	3+4	-4	-4		-4
ショートコーナー	コーナー	3+4	-4	-4	-4	-4
ゴール	ゴール	3	-3	-3	-3	-3
フィールドゴール	ゴール	4+3	-3	-3	-3	-3
サーキット	サーキット	5	-5	-5	-5	-5
アウトサイド	サイド	3+3	-3	-3	-3	-3
ボールサイド	サイド	3+3	-3	-3	-3	-3
ストロングサイド	サイド	5+3	-3	-3	-3	-3
シール	シール	3	0	0	0	-3
ナイシュ	シュ	2+1	-3	-3	-3	-3
シューター	シューター	4	0	0	-4	-4
シュート	シュート	3	-3	-3	-3	-3
ジャンプシュート	シュート	3+3	-3	-3	-3	-3
タップシュート	シュート	3+3	-3	-3	-3	-3
ダンクシュート	シュート	3+3	-3	-3	-3	-3
バックシュート	シュート	3+3	-3	-3	-3	-3
フックシュート	シュート	3+3	-3	-3	-3	-3
ランニングシュート	シュート	5+3	-3	-3	-3	-3
フェイダーウェイシュート	シュート	6+3	-3	-3	-3	-3
ミドルショット	ショット	3+3	-3	-3	-3	-3
スイッチ	スイッチ	4	-4	-4	-3	0
スウェット	スウェット	4	0	0	-3	0
スクリーン	スクリーン	5	-3	-3	-3	-3
アップスクリーン	スクリーン	3+5	-3	-3	-3	-3
ダウンスクリーン	スクリーン	3+5	-3	-3	-3	-3
フレアースクリーン	スクリーン	4+5	-3	-3	-3	-3
インサイドスクリーン	スクリーン	5+5	-3	-3	-3	-3
アウトサイドスクリーン	スクリーン	(3+3)+5	-3	-3	-3	-3
スクリナー	スクリナー	5	0	-3	-3	

スコアラー	スコアラー	5	-3	-3	-4	-3
スターター	スターター	5	0	0	0	0
スタート	スタート	4	-3	0	-3	-3
スタック	スタック	4	-3	0	-3	-3
オープンスタンス	スタンス	4+4	-4	-4	-4	-4
ボクサースタンス	スタンス	4+4	-4	-4	-4	-4
クローズドスタンス	スタンス	5+4	-4	-4	-4	-3
スティール	スティール	4	-3	0	0	-3
ジャブステップ	ステップ	2+4	-3	-3	-3	-3
ワンスステップ	ステップ	2+4	-3	-3	-3	-3
クロスステップ	ステップ	3+4	-3	-3	-3	-3
サイドステップ	ステップ	3+4	-3	-3	-3	-3
バックステップ	ステップ	3+4	-3	-3	-3	-3
ワンツーステップ	ステップ	4+4	-3	-3	-3	-3
ジャンプストップ	ストップ	3+4	-3	-3	-3	-3
ストライドストップ	ストップ	5+4	-4	-3	-4	-3
ストレッチ	ストレッチ	5	-3	-3	-3	-3
スナップ	スナップ	4	-3	0	-3	-3
スピン	スピン	3	-2	-2	-2	-2
スペース	スペース	4	0	-3	-3	-3
フリースロー	スロー	3+3	-3	-3	-3	-3
セーフティー	セーフティー	5	-5	-5	-5	-5
ゼッケン	ゼッケン	4	-4	-4	-4	-4
センター	センター	4	-4	-4	-4	-4
バックスク	ソク	2+2	0	0	-4	
バックターン	ターン	3+3	-3	-3	-3	-3
ロールターン	ターン	3+3	-3	-3	-3	-3
フロントターン	ターン	4+3	-3	-3	-3	-3
タイマー	タイマー	4	-4	-4	-4	-4
オーバータイム	タイム	4+3	-3	-3	-3	-3
ベンチタオル	タオル	3+3	-3	-3	-3	-3
タップ	タップ	3	0	0	0	0
ダブルチーム	チーム	3+3	-3	-3	-3	-3
ボディチェック	チェック	3+3	-3	-3	-3	-3

チップ	チップ	3	-3	0	-3	-3
チャージング	チャージング	5	0	0	0	0
オールコートマンツー	ツー	(3+3)+(2+2)	-4	-4	0	-4
ディナイ	ディナイ	3	-2	-2	-3	-2
ディフェンス	ディフェンス	4	0	0	0	0
ゾーンディフェンス	ディフェンス	3+4	-4	-4	-4	-4
プレスディフェンス	ディフェンス	3+4	-4	-4	-4	-3
オールコートディフェンス	ディフェンス	(3+3)+4	-4	-4	-4	-4
テーピング	テーピング	5		0	0	0
ドライブ	ドライブ	4	-3	0	-3	-3
トラップ	トラップ	4	-3	0	-3	-3
トラベリング	トラベリング	6	0	0	0	0
ワンドリブル	ドリブル	2+4	-4	-4	-4	-4
ダブルドリブル	ドリブル	3+4	-4	-4	-4	-4
パワードリブル	ドリブル	3+4	-4	-4	-4	-4
ビハインドドリブル	ドリブル	5+4	-4	-4	-4	-4
コントロールドリブル	ドリブル	6+4	-4	-4	-4	-4
トレーニング	トレーニング	6	-5	-5	-5	-5
アウトナンバー	ナンバー	3+4	-4	-4	-4	-4
ナンバリング	ナンバリング	6	0	0	0	0
ハーキー	ハーキー	4	-4	-4	-4	-4
バイオレーション	バイオレーション	7	-4	-4	-4	-4
アウトオブバウンズ	バウンズ	3+2+4	-4	-4	-4	
パス	パス	2	-2	-2	-2	-2
ジャンプパス	パス	3+2	-2	-2	-2	-2
チェストパス	パス	3+2	-2	-2	-2	-2
バックパス	パス	3+2	-2	0	-2	-2
フックパス	パス	3+2	-2	0	0	-2
プッシュパス	パス	3+2	-2	-2	0	-2
リードパス	パス	3+2	-2	-2	-2	-2
ロングパス	パス	3+2	-2	-2	-2	-2
スキップパス	パス	4+2	-2	-2	-2	0
バウンドパス	パス	4+2	-2	-2	-2	0
ショルダーパス	パス	4+2	-2	-2	-2	0

ノールックパス	パス	(2+3)+2	-2	-2	-2	0
ビハインドパス	パス	5+2	-2	-2	-2	0
ノーマーションパス	パス	(2+4)+2	-2	-2	-2	-2
オーバーヘッドパス	パス	(4+3)+2	-2	-2	-2	0
ノーマスクケット	バスケット	2+5	-3	-3	-3	-3
パターン	パターン	4	-3	-3	-3	-3
バッシュ	バッシュ	2+1	0	0	0	0
パッシング	パッシング	5	0	0	0	0
ハドル	ハドル	3	0	0	0	0
フロアバランス	バランス	3+4	-4	-4	-4	-3
バスパン	パン	2+2	0	0	-2, -3	0
ボスハンド	ハンド	2+3	-3	-3	-3	-3
ワンハンド	ハンド	2+3	-3	-3	-3	-3
ターゲットハンド	ハンド	5+3	-3	-3	-3	-3
ブザービーター	ビーター	3+4	-4	-4	-4	
ピボット	ピボット	4	-3	-3	-4	-3
ファール	ファール	3	-3	-3	-3	-3
ファイブファール	ファール	3+3	-3	-3	-3	-3
オフフェンスファール	ファール	4+3	-3	-3	-3	-3
テクニカルファール	ファール	5+3	-3	-3	-3	-3
フェイク	フェイク	3	-3	-3	-3	-3
ポンプフェイク	フェイク	3+3	-3	-3	-3	-3
フォワード	フォワード	4	0	0	0	0
パワーフォワード	フォワード	3+4	-4	-4	-4	-3
スモールフォワード	フォワード	4+4	-4	-4	-4	-4
プッシング	プッシング	5	0	0	0	0
ピボットフット	フット	4+3	-3	-3	-3	-3
インサイドフット	フット	(2+3)+3	-3	-3	-3	-3
アウトサイドフット	フット	(3+3)+3	-3	-3	-3	-3
フラッシュ	フラッシュ	4	-3	-3	-3	-3
ファーストブレイク	ブレイク	4+4	-3	-3	-3	-3
オールコートプレス	プレス	(3+3)+3	-3	-3	-3	-3
スリーポイント	ポイント	3+4	-4	-4	-3	-4
ボール	ボール	3	0	0	0	0

エアボール	ボール	3+3	-3	-3	-3	-3
エンドボール	ボール	3+3	-3	-3	-3	-3
キックボール	ボール	3+3	-3	-3	-3	-3
サイドボール	ボール	3+3	-3	-3	-3	-3
ジャンプボール	ボール	3+3	-3	-3	-3	-3
ルーズボール	ボール	3+3	-3	-3	-3	-3
ホールディング	ホールディング	6	0	0	0	0
ポスト	ポスト	3	-3	-3	-3	-3
ローポスト	ポスト	2+3	-3	-3	-3	-5
ミドルポスト	ポスト	3+3	-3	-3	-3	-3
ボトル	ボトル	3	0	0	0	0
マーク	マーク	3	-3	-3	-3	-3
ノーマーク	マーク	2+3	-3	-3	-3	-3
ミスマッチ	マッチ	2+3	-3	-3	-3	-3
マネージャー	マネージャー	5	0	0	0	0
ボールマン	マン	3+2	-3	-2, -5	-3	-3
マークマン	マン	3+2	-3	-5	-5	-5
シックスマン	マン	4+2	-3	-3, -4	-6	-3
ミート	ミート	3	-3	-3	-3	-3
ムービング	ムービング	5	0	0	0	0
スタメン	メン	2+2	0	0	0	0
スリーメン	メン	3+2	0	0	-2	0
ファイブメン	メン	3+2	0	0	-5	0
メンバー	メンバー	4	-4	-4	-4	-4
モーション	モーション	4	-4	0	-4	-4
ユーザー	ユーザー	4	0	0	0	0
ユニホーム	ユニホーム	5	-3	-3	-5	-3
インライン	ライン	2+3	-3	-3	-5	-3
パスライン	ライン	2+3	-3	-3	-3	-3
エンドライン	ライン	3+3	-3	-3	-3	-3
ゴールライン	ライン	3+3	-3	-3	-3	-3
サイドライン	ライン	3+3	-3	-3		-3
ボールライン	ライン	3+3	-3	-3	-3	-3
ミドルライン	ライン	3+3	-3	-3	-3	-3

オールラウンド	ラウンド	3+4	-4	-4	-4	-4
パスラン	ラン	2+2	0	0	-3	-2
バックラン	ラン	3+2	-2	-2	-2	-2
ランニング	ランニング	5	0	0	0	0
リバース	リバース	4	-4	-4	-3	-4
リバウンド	リバウンド	5	0	0	0	0
レシーブ	レシーブ	4	-3	0	0	0
レフリー	レフリー	4	-4	-4	-4	-4
ローテーション	ローテーション	6	0	0	-4	0
ピックアンドロール	ロール	3+3+3	-3	-3	-3	-3

5 考察

5.1 アクセント型

今回の調査で得られたアクセント型の概観を示す⁵。

後ろから3拍目を含む音節に下がり目がある例6は、118/231例(なし)、41/231例(あり)であった。内訳として、単純語では22/77例(なし)、22/77例(あり)、複合語では96/154例(なし)、19/154(あり)であった。

下がり目なし(平板型)の例は、26/231例(なし)、34/231例(あり)であった。内訳として、単純語では24/77例(なし)、18/77例(あり)、複合語では2/154例(なし)、16/154(あり)であった。

1拍目の拍の後ろに下がり目がある(頭高型)の例は、19/231例(なし)、18/231例(あり)であった。内訳として、単純語では19/77例(なし)、10/77例(あり)、複合語では0/154例(なし)、8/154(あり)であった。なお、頭高型かつ後ろから3拍目を含む音節に下がり目がある例は、単純語では14/19例(なし)、8/10例(あり)、複合語では7/8例(あり)であった。

型の割合を個人差がなかった結果からのみ捉えると、後ろから3拍目を含む音節に下がり目がある型が118/231例で51.1%、平板型が26/231例で11.3%になるといった偏りがみられる。

⁵ 合計数の後ろに示した(なし)(あり)については、(なし)は回答が一致し個人差がない例、(あり)は回答が一致せず個人差がみられる例である。

⁶ 表中で-4と示されているものであっても、例えば「クロスオーバー」のように後ろから4拍目を含む音節「オー」は、後ろから3拍目も含んでいる。後ろから3拍目が撥音・促音・長音・二重母音の場合、この例に該当する。これらについては、考察では-3と同様に処理した。

5.2 複合語の後部要素のアクセント

後ろから 3 拍目を含む音節に下がり目がある例は、複合語において個人差がないものだけでも 96/154 例みられ、複合語の中で 62.3% という割合を示している。

これは複合語の後部要素がアクセント型を決定しているところに起因する。以下に表 3 として後部要素のアクセントをまとめて示す。

表 3：後部要素のアクセントのまとめ

下がり目	後部要素
-2	イン、オフ、パス、ラン
-3	アウト、アップ、エリア、オーバー、ガード、カット、キーパー、クォーター、コート、コーナー、ゴール、サイド、シュート、ショット、スクリーン、ステップ、ストップ、スロー、ターン、タイム、タオル、チーム、チェック、ナンバー、バスケット、ハンド、ファール、フェイク、フット、ブレイク、プレス、ボール、ポスト、マーク、マン、ライン、ロール
-4	アラウンド、オフense、カウント、キャプテン、スタンス、ドリブル、バランス、フォワード、ポイント、ラウンド

5.3 辞典類との異同：平板化の割合

本稿で扱った山梨方言は東京方言のアクセント型に準じた型といわれている。そこで、アクセント表記が示された各種辞典類との異同を比べることで、青年層の平板化がどの程度の割合で実現しているのかを確認しておきたい。

辞典類は『NHK 日本語発音アクセント辞典新版』、『大辞林第 3 版』、『新明解日本語アクセント辞典』の 3 種を用いた⁷。辞典類と一致した例を表 4-1 に、辞典類と多数が一致した例を表 4-2 に、辞典類とほとんど一致しなかった例を表 4-3 に、辞典類と全く一致しなかった例を表 4-4 に示す。

表 4-1：辞典類と一致した 71 例⁸

語彙	NHK	大辞林	新明解	OA	SS	SR	YM
パス	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
アウト	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
ガード	-3, 0	-3, 0	-3, 0	0	0	0	0
ゴール	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3

⁷ 表中の空欄は辞典に記載がなかったことを示す。

⁸ 表中で例えば「-3 ウ」となっているところは、辞典の表記では「ファール」ではなく「ファウル」であったことを示している。以下、該当箇所の辞典表記は「レフェリー」「ファーストブレイク」「スチール」であった。

シュート	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
スピン	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
ファール	-3 ウ	-3 ウ	-3 ウ	-3	-3	-3	-3
フェイク		-3		-3	-3	-3	-3
ボール	0, -3	0	0, -3	0	0	0	0
ポスト	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
マーク	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
ミート	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
ボトル	0	0	0	0	0	0	0
アシスト	-3	-3		-3	-3	-3	-3
ウイング	-3, 0	-3, 0	-3	0	0	0	0
オフENSE	0	0		0	0	0	0
クリアー	-3		-3	-3	-3	-3	-3
コーナー	-4	-4	-4	-4	-4	-4	-4
スタメン		0		0	0	0	0
センター	-4	-4	-4	-4	-4	-4	-4
ディフェンス	0	0, -4	-4, 0	0	0	0	0
パターン	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
フォワード	0	0, -3		0	0	0	0
フラッシュ	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
メンバー	-4	-4	-4	-4	-4	-4	-4
レフリー	-4 フェ	-4	-4 フェ	-4	-4	-4	-4
ゼッケン	-4	-4	-4	-4	-4	-4	-4
タイマー	-4	-4	-4	-4	-4	-4	-4
エントリー	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5
カットイン	-2	-2		-2	-2	-2	-2
スクリーン	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
セーフティー		-5		-5	-5	-5	-5
チャージング		0, -5		0	0	0	0
チェストパス		-2		-2	-2	-2	-2
ノーマーク		-3		-3	-3	-3	-3
パッシング	0	-5		0	0	0	0
プッシング		0		0	0	0	0
ミスマッチ	-3	-3		-3	-3	-3	-3

ロングパス		-2		-2	-2	-2	-2
マネージャー	-4, 0	-4, 0	-4, -5, 0	0	0	0	0
ランニング	0	0	0, -3	0	0	0	0
ストレッチ	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
サーキット	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5
テーピング	0	0	0		0	0	0
アウトサイド	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
エンドライン		-3		-3	-3	-3	-3
カットアウト		-3		-3	-3	-3	-3
キックボール		-3		-3	-3	-3	-3
ゴールライン		-3		-3	-3	-3	-3
サイドライン	-3	-3		-3	-3		-3
ジャンプボール		-3		-3	-3	-3	-3
タイムアウト	-3	-3		-3	-3	-3	-3
ダンクシュート	-3			-3	-3	-3	-3
ピックアップ	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
フリースロー	-2, -3	-2		-3	-3	-3	-3
ホールディング	0	0		0	0	0	0
ボディチェック	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3
ワンステップ		-3		-3	-3	-3	-3
トレーニング	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5
ナンバリング	0	0	-6, 0	0	0	0	0
インターセプト	-3	-3		-3	-3	-3	-3
オーバータイム		-3	-3	-3	-3	-3	-3
オールラウンド	-4	-4	-4	-4	-4	-4	-4
クロスオーバー	-4	-4		-4	-4	-4	-4
サイドステップ		-3		-3	-3	-3	-3
ゾーンディフェンス		-4		-4	-4	-4	-4
タイムオーバー		-4		-4	-4	-4	-4
タイムキーパー	-4	-4		-4	-4	-4	-4
バイオレーション		-4		-4	-4	-4	-4
ファーストブレイク		-3	ー	-3	-3	-3	-3
アウトオブバウンズ		-4		-4	-4	-4	

表 4-2 : 辞典類と多数が一致した 12 例

語彙	NHK	大辞林	新明解	OA	SS	SR	YM
チップ	-3	-3	-3	-3	0	-3	-3
クラッチ	-3	-3	-3	-3	0	-3	-3
スタート	-3, 0	-3, 0	-3, 0	-3	0	-3	-3
スタック		-3		-3	0	-3	-3
スナップ	-3	-3	-3	-3	0	-3	-3
スペース	-3	-3, 0	-3	0	-3	-3	-3
トラップ	-3	-3	-3	-3	0	-3	-3
ドライブ	-3		-3	-3	0	-3	-3
ピボット		-3, -4		-3	-3	-4	-3
モーション	-4	-4	-4	-4	0	-4	-4
インライン		-3		-3	-3	-5	-3
ユニホーム	-5, -3	-3, -5	-5, -3	-3	-3	-5	-3

表 4-3 : 辞典類とほとんど一致しなかった 10 例

語彙	NHK	大辞林	新明解	OA	SS	SR	YM
シール	-3	-3	-3	0	0	0	-3
ギャロップ	-4	-4	-4	-4	0	0	-4
スイッチ	-3, -4	-3, -4	-3, -4	-4	-4	-3	0
スティール	-3 チ	-3 チ	-3 チ	-3	0	0	-3
リバース		-3		-4	-4	-3	-4
レシーブ	-3	-3	-3	-3	0	0	0
スウェット		-3		0	0	-3	0
スコアラー	-4	-4	-4	-3	-3	-4	-3
ローテーション	-4	-4	-4	0	0	-4	0
クローズドスタンス		-3		-4	-4	-4	-3

表 4-4 : 辞典類と全く一致しなかった 10 例

語彙	NHK	大辞林	新明解	OA	SS	SR	YM
タップ	-3	-3	-3	0	0	0	0
ゲーム	-3	-3	-3	0	0	0	0
ユーザー	-4	-4	-4	0	0	0	0
スターター	-4	-4	-4	0	0	0	0

アイシング	-5	-5		0	0	0	0
トラベリング		-5		0	0	0	0
ダブルドリブル		-3		-4	-4	-4	-4
オープンスタンス		-3		-4	-4	-4	-4
スローイン		-4		-2	0	-2	-2
リバウンド		-4		0	0	0	0

表 4-2 ではチップ、クラッチ、スナップ、トラップ、ドライブ、モーションの 6 例、表 4-3 ではシール、ギャロップ、スイッチ、スティール、レシーブ、スウェット、ローテーションの 7 例、表 4-4 ではタップ、ゲーム、ユーザー、スターター、アイシング、トラベリング、スローイン、リバウンドの 7 例が、平板化による不一致となっており、辞典に平板型が示されていない 29 例のうち 20 例 (64.5%) が平板化しているという事実が確認できる。辞典と一致した 71 例のうち平板型が示されているのは 16 例であり、残る 55 例は平板化していない。よって、青年層の平板化という観点では、29 例と 55 例を足した 84 例のうち 20 例 (23.8%) が平板化したといえる。

5.4 専門家アクセント

経験者と未経験者で異なるといえるのは、シューター、パスラン、バスソク (いずれも平板とそれ以外) の 3 例と、スイッチ (頭高とそれ以外) およびステップイン (-3 と -2) の 2 例の計 5 例のみであった。明らかに異なるとはいえないものの、広く調べれば両者で異なる可能性がありそうな語彙を含めたとしても、バスパン、スリーメン、ファイブメン、シール、スウェット、ローテーション (平板とそれ以外の可能性) の 6 例が加わるだけである。

専門家アクセントで平板化するという観点から、今回の調査で得られたデータを精査した結果、231 例のうちわずか 3 例 (1.3%) しか該当する例が得られなかった。この事実は専門家アクセントが報告される一方で、帰属集団によって専門家アクセントが実現しやすい場合と実現しにくい場合があることを示唆し、今回の調査からは山梨方言青年層話者におけるバスケットボールの用語の発話については、専門家アクセントはほぼ実現しないということが明らかになった。

6 結語

今回の調査から以下の点が確認できた。

- (a) 山梨方言青年層話者の外来語アクセントの型は、後ろから 3 拍目を含む音節に下がり目がある型 (51.1%) と下がり目がない平板型 (11.3%) が多数であるといった偏りが

みられる。

(b) 青年層の平板化という観点では、下がり目がある型である 84 例のうち 20 例 (23.8%) が平板化した。

(c) 専門家アクセントによる平板化という観点では、全 231 例のうち 3 例 (1.3%) しか該当するものがみられず、山梨方言青年層話者におけるバスケットボールの用語の発話については、専門家アクセントはほぼ実現しないということが明らかになった。

今回は、4 人の青年層インフォーマントに的を絞り、山梨方言におけるバスケットボール用語を扱ったが、今後はこのテーマに山梨方言だけではなく複数の方言、インフォーマントに参加してもらい、それぞれの相違点を見つけ出すことを目標としていきたいと思うと同時に、バスケットボール用語だけでなくたくさんの種類の専門語における平板化を研究していきたい。

参考文献

- 秋永一枝 編 (2001) 『新明解日本語アクセント辞典』三省堂
- 稲垣正幸・清水茂夫 (1983) 「山梨県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 6 一中部地方の方言一』国書刊行会
- 井上史雄 (1998) 『日本語ウォッチング』岩波書店
- NHK 放送文化研究所 編 (1998) 『NHK 日本語発音アクセント辞典 新版』日本放送協会
- 松村明 編 (2006) 『大辞林 第 3 版』三省堂
- 望月信彦 (1952) 「山梨県奈良田部落のアクセントの研究—東西アクセントと比較して」寺川喜四男・金田一春彦・稲垣正幸編『国語アクセント論叢』法政大学出版局

(福盛貴弘 大東文化大学外国語学部、宮下美穂 大東文化大学外国語学部卒業生)

Accent of Basketball Terms in Young Yamanashi Dialect Speakers

FUKUMORI Takahiro & MIYASHITA Miho

This paper researched the accent of basketball terms spoken by young speakers of Yamanashi dialect. The aims of this paper are to examine accent types of foreign words and differences when these words were spoken by people with and without basketball experience.

The data analyzed here contained 231 words provided by two people with basketball experience and two people without.

The results are as follows:

- (1) The most frequent accent type uttered by the informants was falling accent on the syllable containing the antepenultimate mora (51.1%), followed by flat accent (11.3%).
- (2) Regarding the view that falling accent changes to flat accent in the speech of young speakers, in 20 of 82 words, falling accent changed to flat accent.
- (3) A difference in accent was observed in only 3 words out of 231 (1.3%) between people with basketball experience and people without.